

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成31年3月7日(2019.3.7)

【公開番号】特開2018-151297(P2018-151297A)
 【公開日】平成30年9月27日(2018.9.27)
 【年通号数】公開・登録公報2018-037
 【出願番号】特願2017-48571(P2017-48571)
 【国際特許分類】

G 0 1 N 17/00 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 17/00

【手続補正書】

【提出日】平成31年1月25日(2019.1.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 4】

順次説明すると、側面係合片 5 1 は、試験室 5 の右側壁 3 2 側と係合してウィック離脱防止手段 5 0 の一端を支持する部位であり、図 8 及び図 1 0 (a) の様な装着時の姿勢を基準として、水平方向に延びる短片である。

立ち上げ片 5 2 は、機能部（縦抜け防止ガード部 5 6、横揺れ防止ガード部 5 7）を所定の高さに保持するものであり、側面係合片 5 1 に対して垂直方向の角度をもつてのびている。

立ち上げ片 5 2 は、図 8 及び図 1 0 (a) の様な装着時の姿勢を基準として、垂直方向に立ち上がる部分である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 7】

横揺れ防止ガード部 5 7 は、縦抜け防止ガード部 5 6 に対して所定の角度に折り曲げられたものである。横抜け防止ガード部 5 7 は、図 8 及び図 1 0 (a) の様な装着時の姿勢を基準として、水平方向にのびる部分であり、縦抜け防止ガード部 5 6 に対して所定の角度で傾斜している。

横抜け防止ガード部 5 7 は、ウィック 2 5 の大面積部分の幅（奥方向にのびる幅）に相当する長さを有している。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 2】

温度センサ 1 2 及び湿球温度検知手段 1 3 は、いずれも奥壁 3 0 を基端部として片持ち状に張り出されている。温度センサ 1 2 及び湿球温度検知手段 1 3 の長手方向にのびる部位は、いずれも右側壁 3 2 に対して平行にのびている。

従って、温度センサ 1 2 及び湿球温度検知手段 1 3 の湿球用温度検知センサ 2 8 は、いずれも奥壁 3 0 側から片持ち状に張り出され、自由端は、扉部材 2 0 の方向に向いている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 4】

ここでウィック離脱防止手段 5 0 とウィック 2 5 との位置関係について説明すると、ウィック離脱防止手段 5 0 は、ウィック 2 5 の近傍にあるが、無風状態にあっては、図 1 0 の様にウィック離脱防止手段 5 0 はウィック 2 5 とは接していない。

ウィック離脱防止手段 5 0 の横揺れ防止ガード部 5 7 は、ウィック 2 5 よりも試験室 5 の右側壁 3 2 側にある。横揺れ防止ガード部 5 7 は、ウィック 2 5 の挿入方向の幅に相当する長さを有しており、横揺れ防止ガード部 5 7 はウィック 2 5 の表面を幅方向（挿入方向）に覆う。

ウィック離脱防止手段 5 0 は、大部分が水平姿勢であって、横揺れ防止ガード部 5 7 の平面視した際の位置は、湿球用温度検知センサ 2 8 と平行にあり、ウィック 2 5 の垂れ下がり部分 3 5 の大面積側（表面側）に対して平行である。

横揺れ防止ガード部 5 7 の高さは、ウィック 2 5 の垂れ下がり部分 3 5 の中間高さの位置である。

横揺れ防止ガード部 5 7 は、垂れ下がった状態のウィック 2 5 の側面側であって高さ方向には前記検温部 2 6 の高さ未満であり、検知用水貯留部 2 3 の水面の高さ以上の位置にある。